

ARTIST
CLIP

No.50



ガラス作家
西中千人
Yukito Nishinaka



『呼継 焔 (よびつぎ ほむら)』
(23.5×19.5×高さ38.5cm)

Information -

西中千人展

呼継 - 叩き壊して
生まれ変わる

●6月16日(水)→22日(火)
日本橋高島屋S.C.
本館6階 美術画廊

▽ 高島屋の美術
▽ ART INFORMATION



にしなか・ゆきと
1964年 和歌山市生まれ。
星薬科大学薬学部卒業後、
薬剤師免許取得。カリフォル
ニア美術大学で彫刻とガラ
スアートを学ぶ。[命の煌め
き・再生]をテーマに、古の
日本の美にインスパイアさ
れた独自のガラス表現を追
求。ヴィクトリア&アルバート
博物館はじめ国内外の博物
館に作品が収蔵されている。

これまで京都・法然院の参道に、リサイクルガラスを使ったオブジェを配置し、現代的な枯山水を表現するなど、新しい表現に挑んできた西中さん。今回は龍村美術織物の裂地を用いた、コラボレーションも展示する。

「今の自分を壊し、新しい可能性を求めて」

ガラスは光を
集めるための器

冷

たいはずのガラスなのに、生命を持つているようだ。躍動するフォルムが見る人を誘う、西中千人さんの作品にはエネルギーが溢れ、美しさがとじこめられている。「薬学部を卒業したあと、ガラス工芸を学びたいと思い、アメリカの美術大学に進みました。そこでヴェネツィアンガラスをはじめ、ガラスの技術は一通り学びました。しかし、世界で通用するためには、すでにある技術を見せるだけでは足りません。『あなたの表現は何か』という問いに答えられなくてはいけない。フィロソフィーとストーリーとヒストリーがないアートは、ありえないからです」

西中さんは完成したガラス作品をあえて壊し、いくつものパーツを組み合わせる「呼継よびつぎ」の技法で新たに作品を生み出してきた。そもそも呼継は、異なる陶磁器の破片

を集めて新しい作品を作るといって、漆継ぎの技法の一つ。西中さんは、ガラス作品で呼継の作品を作るといって、大胆な発想なのだ。難しい技法であることは容易に想像できるが「技術はあってあたりまえ。死ぬほど努力するのがアーティストですから、その先の話をしましょう」と、西中さんは笑顔で語る。

「長年、一つのことを追求していけば、もちろんうまくいきます。しかし、いくら技術的に進歩しても、それだけではアートとしての到達点ではない。自分自身の表現を追求し、先に進もうと思うなら、昨日の延長にはいられません。今の自分を壊すために、完成した作品を割るんです」

割った作品を継いでいくと、そこにはヒビが生まれる。

「ヒビを欠点ではなく、個性であり魅力に変えたのが、日本ならではの美意識です。いわば生命の輝きがそこにあります。最近海外でも金継ぎが流行ってきていて、日本的な感覚が受け入れられるようになってきたのを実感しています」

ガラスという素材について尋ねると、「光そのもの。光をそこに置いておくためのもの」との答え。唯一無二、光を集めた作品に出合っしてほしい。